

中学校の修学旅行は、生徒にとって一生の思い出にもなる大きな行事。学校としては、校外学習ならではの教育プログラムをいかに企画するかということも大切だが、併せて、旅行中の生徒の安心、安全をどう確保することも重要な。そこで今回、旅行会社の教育旅行担当者や受け入れ地域の関係者らに集まっていただき、「修学旅行の危機管理を考えた」をテーマにした座談会を開催した。修学旅行中に起こる危機はさまざまあるが、その中でも「体験型学習時の事故対応」「地震・火災発生時の避難」「食中毒・食物アレルギー対策」の3つをテーマにとらえた。

座談会

修学旅行の危機管理を考える

|                         |        |
|-------------------------|--------|
| 出席者(順不同)                |        |
| 全国修学旅行研究協会<br>理事長       | 岩瀬 正司氏 |
| 春茂登ホテルグループ<br>代表取締役     | 根本 芳彦氏 |
| 体験教育企画<br>代表            | 藤澤 安良氏 |
| 越後田舎体験推進協議会<br>事務局長     | 小林美佐子氏 |
| JTB<br>旅行事業本部教育旅行担当部長   | 向田 淳氏  |
| 近畿日本ツーリスト<br>営業統括本部販売部長 | 三好 宏之氏 |
| 日本旅行<br>教育旅行部長          | 直江 晃彦氏 |



藤澤氏

中学校の修学旅行のおかれている現状

全国修学旅行研究協会 理事長 岩瀬正司

元々は中学校の教員出身で、2010年の春に世田谷の尾山台中学校の校長を最後に退職した。私の教員としての経験、あるいは教頭、校長としての経験から、中学校の修学旅行の現状を考えた時にさまざまな課題があると捉えている。

一つ目は教育課程を作る上での課題だ。今、子供たちの学力はどうなのかとすごく言われており、文部科学省も子供たちの学力を高めようといろいろな手を打っている。学校は勉強をする場であるので、それはそれでいいのだが、それ以外の活動はどうかというところ、学力向上のために隠されてしまっている部分がある。授業にかけられる時間は増えるけれども、それ以外の時間が減ってくる。特別活動の修学旅行に今までのように時間がかけられない。時間がかけられず、教員、学校はあまり冒険をしないので、前例踏襲になっていく。新しい修学旅行を開拓する意気や試みがかたなくなってくる。

もう一つは、学校を取り巻く、特に教員の問題。今、団塊世代の教員がどんどん辞めていて、世代交代がとてま激しく起こっている。今まではどの学校にもバランスよく、若い先生、中堅の先生、ベテランの先生がいたのだが、ベテランがどんどんいなくなって、若い先生ばかりになってくる。そうすると、今までのように「修学旅行はあの先生に任せれば大丈夫だ」という先生がいなくなる。そうすると、どうしても若い先生が企画をせざるを得ない。そうするとモデルがあまりないから、やはり「去年のままでいい」と新しい冒険をしなくなるのではないかな。

さらには、私たちの時代の昔は、修学旅行の実践なども2人で、2泊3日で、というのが常識だった。ところが今は地方自治体の非常に財政の厳しいところがあるから、「毎年同じ所に行くのになぜ2人で2泊3日も行くんだ」という締めつけがある。

私が最後に過ごした世田谷区の場合は「1泊2日にしろ」と。どうしても2泊3日で行きたいのなら「1人で行け」と。私は校長として抵抗して最後まで2泊3日でもやらせてはかなり苦労をした。

そういうような状況で、新しい修学旅行を求めていくという姿勢がだんだんと学校に欠けてきてしまっている。勢い前例踏襲といった流れになっていく。

もう一つは社会全体の価値観の多様化。いろいろな価値観を社会全体が持っているし、それがもたらす学校に持ち込まれてくる。今までのような指導の仕方、準備の仕方、運営の仕方では、何をやるかも保護者からクレームがつく。子供たちが不平を言う。そういうような、社会の縮図が学校に即持ち込まれているので、これまた修学旅行を実施するうえでさまざまな困難がきている。特に中学校にはこれが持ち込まれていると思っている。

その一つの極端な例が危機管理だ。私が現役の頃に危機管理と言ったら、「現地で交通事故に気を付けよう」、「それから「宿の火災に気を付けよう」「食中毒に気を付けよう」他校とのトラブルに気を付けよう」と、そんな指で数えられるくらいのことに対応していればよかったのだが、今は数えられない。危機対応を考えないと修学旅行ができないのが現状だ。

職業体験プログラム

受け入れ側の教育徹底を 藤澤氏 学校との信頼関係が大切 小林氏

藤澤 職業体験プログラムを実施する上での危機管理について、参加者の方々はそれぞれ仕事がある部分でのご意見をいただきたい。岩瀬 昨今の修学旅行は見学型から体験型へと大きくシフトしている。先生は体験型学習のさまざまなパターンを熟知して、予想されるさまざまなリスクを考えて、それに見合った準備をすることが第一だ。体験旅行を引き受ける側は、学校の心配事をきちんと踏まえて準備してほしい。特に中学生は、常識では考えられないことをいってしまう。ぜひ引き受ける側では、そういったことを加味したプログラムを作りたい。

仲介する旅行会社には、学校に対してさまざまな情報提供をしてほしい。教員が実際にそこに行ってみると、状況がなかなかできていない状況があるので、その間に入っている旅行会社がいろいろな情報を得て、学校に提供してほしい。藤澤 私は学習指導要領や文科省の指針などをとらえて、地域に対して体験プログラムをどう作ったらいいかという指導を行っている。「ほんもの体験」という言葉を出したのが私。そういうことからこの問題はとても責任重大だ。受け入れ側の準備や事故の発生対応については「農作物・森林生活体験(民泊) 受入家庭手引 安全対

ある。あとは落石、転倒。自然の中なので、何があるか分からない。あんなことを予測しなからリスクを回避しているというのが実態だ。一番重視しているのが行政との連携。あとは、私は日光温泉旅館協会の。そこには、行政との連携が非常に大切だと思わされています。まず実地に来た時に、民泊、ホームステイで学校の

行政と民間施設と地域の人が一緒に製作した。日本でも民泊を行っているのは方軒を超えているが、もう8千部を超えているから、相当多くのところに配布されたと考えている。こういったマニュアルを作らせて受け入れ地域に普及させる必要がある。農家や漁師のおじさん、おばさんでトラブルを起こした人は、冊子を見ないし、勉強会にも出ない人が多い。トラブルが起きて、体験学習はやめたいよとなつては大変だ。だから

から、受け入れ側では教育研修をしっかりやることが大切だ。しっかりとこう話をして学校や旅行会社にもきちんと伝えていけるようにしたい。我々としては、ほんもの体験ネットワークという体験受け入れ地域の組織を作りたい。ネットワークの25団体にそれぞれを徹底するようにしている。小林 私たちは「越後田舎体験」という名称で、上越市と十日町市の

先ず心配する食事や安全などについて説明をして、理解してもらえよようにしている。藤澤 越後田舎体験は、海もあり、山もあり、というところがいいのだが、昨年からは信濃川のラフティング体験を体験メニューに加えた。コースは急激なコースのない安全なコースだが、水場なので、中学生の先生は非常に心配するので、下見時には実際に乗るなどして、安全性を確かめようという対応をしている。

同組合の理事を務めているが、中禅寺、湯元といった近郊にある旅館組合と連携して、何かあった場合に力を借りて、捜索や救助を行っている。向田 職業体験での危機管理には、大きく分けて「提案」「下見」を含めた1年以上の打ち合わせ。「実施」の3つの段階がある。提案段階

では、社として安全・良質なサービス提供機関を選定するために、利用施設に対して十分な調査を行った上で契約している施設を案内している。基本的には安全確保や緊急対応における危機管理のための事項など、基準を設けて、学校に紹介している。大事なのは下見を含めた1年以上ある打ち合わせの段階だ。学校にこのリスクの可能性があるかどうかという話をしながら打ち合わせをするところだ。

Tゾーンでイベントという呼び方で危機管理体制を整えている。ポイントとしては、まず一つは、学校から目的地までのエリア、潜在しているエリアで社員が安全に対応できる体制を整えているところ。二つ目は、起こった場合への迅速な対応の一つとして、全社員が緊急対応訓練を修了している。もう一つは、外部パートナーと連携して、スマートフォンでも対応できるようにしている。

岩瀬氏

直江 われわれも昨年「E2ナビ」(いーなび)というシステムを作っている。これは、先生の打ち合わせの中でいろいろやりとりがあるから、それを事前にシステムの中心に入れて、先生が自由に修学旅行の安全対策を取り出せる機能が一つ。もう一つは、生徒がシステムを使って班別行動のプランを作成するという機能だ。生徒が班別行動のとき地図を見て歩きやすいルートが、今生徒がその地図の中でこの位置にいるのがわかるから、班別行動もしている。自分のいる場所から一番最寄りの避難場所がどこにあるかわかる。

根本 学校の体験活動では、日光の場合には戦場ヶ原付近を自然散策するのが一番多い。最近ではクマの出没が大変多くて、これはものすごく父親が心配している。それから何年前にスヌメバチに襲われ、大変な被害が出たこともあった。また、遭難グループ活動で歩いていて、1人、2人いなくなってしまうことが

GPS、スマホで支援体制 三好氏

三好氏

岩瀬氏

岩瀬氏

岩瀬氏

岩瀬氏



小林氏



三好氏

三好氏

岩瀬氏

避難所マップを学校へ 岩瀬氏

地震・火事など